

オープンイノベーション機構の整備事業
令和5年度終了評価 評価結果

採択大学名: 東京医科歯科大学

1. 評価結果(S)

期待以上の成果が得られており、今後もさらに大型共同研究等の組成・運営に向けた優れた産学連携マネジメント活動として発展することが期待される。

2. 評価所見

・運営体制

専任性のほかクロスアポイントメントや出向制度等も積極的に活用し、産業界の多用な業種から高い専門性と豊富な実務経験を有する人材を統括クリエイティブマネージャーや各研究分野(医薬、再生医療、ゲノム、医療機器、ヘルスケア)のクリエイティブマネージャー(CM)として迎え入れることで、企業の事業戦略やニーズを熟知し、知財・財務・法務等にも精通したメンバー構成による産学連携マネジメント体制が構築された。また、学長及び統括 CM のリーダーシップで決定したオープンイノベーション機構(OI 機構)の基本戦略を踏まえ、統括 CM が主催する定例の事業推進会議において、個々の研究プロジェクトの具体的なマネジメント方法や要解決課題への対応方策等が検討・実施されるなど、堅固なガバナンス体制による機動的な産学連携活動が展開されている。利益相反、技術流出防止等のリスクに対しても徹底したマネジメントがなされている。

・研究運営

統括 CM、各分野に配置された CM 及び「知財戦略、企画戦略、財務・法務」部門の CM が一体となって9件の包括連携協定を締結し、大型研究プロジェクトの創出基盤を築いている。また、民間事業者との共同事業として、医療及び研究現場である大学に近接したインキュベーション施設を設け、当該環境下において、企業、スタートアップ及びアカデミアの研究者による日常的かつ物理的な交流促進を図るイノベーションコミュニティを形成するなど、ハード・ソフトの両面から、セクターを超えた共創活動を実現する仕組(TMDU Innovation Park(TIP))を展開。これらに加え、「TMDU イノベーションプロモーター教員制度」を新たに設け、学長が任命する学内の若手研究者がプロモーターとなり、ビジネスに精通した OI 機構の CM とタッグを組むことで、学内シーズの探索・把握と産学連携コーディネーションの増強を図る仕組みもできている。

・資金調達

OI 機構の堅固なガバナンス体制下において、包括連携協定の締結、イノベーションプロモーター教員制度の展開や TIP の活動等を通じて大型産学連携共同研究の組成件数を着実に伸ばしている。また、毎事業年度の資金獲得目標に対して 120~160%の実績をもって達成しており、最終事業年度の目標値も1年度前倒しでクリアできている。最終事業年度における民間資金の獲得総額も対初年度 2.2 倍(OI 機構の自立的経営財源の獲得額は 3.3 倍)としており、民間資金を活

用した OI 機構の自立的経営の目処も立つなど、当初の期待以上に十分な成果が得られたことは高く評価できる。

・大学改革

間接経費、戦略的産学連携経費、学術貢献費（研究者のエフォートに対する「知」の価値付け）、ライセンス収入、共同研究講座収入、前述した「TIP」事業の会費及びラボ賃料等々、産学連携収入の多様化を図るとともに、これらの収入（間接経費、知的財産関連収入、戦略的産学連携経費等）を産学連携セグメントとして独立させ OI 機構の財務基盤を強化したことが、機構の持続的経営に不可欠な人件費や活動経費等の安定確保に繋がっている。また、イノベーションプロモーター教員制度の導入によって、産学連携コーディネーション機能の強化にとどまらず、当該教員のイノベーションマインドや学内のイノベーションリテラシー向上といった効果も認められており、当該教員に対する人事評価と処遇への反映の仕組みが構築されている点においても高く評価できる。

・今後の展望

本整備事業期間中に医療系単科大学としての特徴を活かしたオープンイノベーションの推進体制が構築され、令和5年度には翌6年度の東京工業大学との統合を見据え、OI 機構と学内既存の産学連携関係組織とを発展的に統合し、アライアンス推進や知財マネジメント、プロジェクトマネジメント機能等を集約した「統合イノベーション機構」が立ち上げられた。今後の当該新体制下での大学改革及びイノベーション創出活動の推進による貴学の更なる成長・発展と、大学統合による医工連携のシナジーを期待したい。